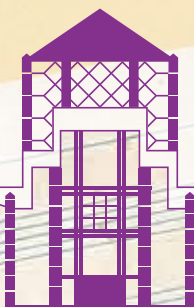


YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館



News No. 55
2023.8

{ 特別展 }

中田喜直展

生誕百年

Yoshinori Nakada

*Sonata
for Piano*



報告

浮世の華 撮かれた港崎

君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2023—

歴史未来フェス

予告

ヨコハマの輸出工芸

館長コラム vol.4

【特別展】

生誕百年 中田喜直展

2023年7月15日(土)～10月1日(日)
休館日 毎週月曜日(ただし9月18日は開館)、9月19日(火)

中田喜直(大正十二年～平成十二年、一九三二～二〇〇〇)は、『夏の思い出』《ちいさい秋みつけた》など、数々の名曲を生んだ作曲家として知られています。横浜とのかかわりとしては、昭和四十三年(一九六八)から亡くなるまでの約三十年間を横浜で暮らしたこと、昭和二十八年から四〇年間にわたってフェリス女学院で教鞭をとったこと、市立学校の校歌を作曲したことなどがあげられます。

中田は「音楽の存在する形はいろいろあるが、そこに必ず人間があり、そしてその人間が社会生活をいとなむ以上、音楽と社会は、直接、間接に深い関係がある」(牛山剛『夏がくれば思い出すー評伝 中田喜直』新潮社、二〇〇九)という考えを持っており、政治や社会問題、さらにはスポーツ、趣味娯楽などに広く関心を持ち続けました。ここでは、こうした中田の音楽以外の顔をいくつかご紹介します。

○スポーツ

少年時代に夢中になったという野球。作曲家グループ「ろばの会」メンバーとボニー・ジャックスを中心に、草野球チーム「ドンキーズ」を結成して活動しました。NHKやTBS、キング・レコードなどのチームと定期戦を行ったり、音楽之友社チームと対抗試合を行ったりといった記録も残っています(『音楽の友』一九七三年八月号)。

夏には水泳を楽しみました。弟の民夫が校長をつとめていた小学校のプールで、生徒たちのいない休日を利用して兄弟や甥たちと泳いだこともあったといえます。

晩年まで続けたスキーは三十歳を過ぎたころから熱中し、昭和五十六年にはスキー一級検定に合格しています。中田はスキーの素晴

中田喜直の人物像・所感 ～多彩な側面と、その根底にあるもの

らしさについて「まず第一に最高にきれいな空気の中で、非常に静かにスピードを楽しむことが出来るから」(「人生は好奇心」4、「公明新聞」一九九六年一月二十八日)だと述べています。なおこの「きれいな空気」は、次に紹介する煙草問題ともつながる考え方です。

○禁煙・嫌煙

中学時代に百科事典を読んで煙草を吸わない決心をした中田は、嫌煙権運動に携わるようになり、煙草が空気や道路(ポイ捨てによる)を汚すことや健康への害を著書、新聞連載、対談、講演、コンサート、大学での講義などあらゆる機会に熱心に説きました。ピアニストの館野泉も、初めて中田に会った時、中田が「煙草を吸う害について力説し、それがいかに周囲の人たちにも害や不快感をもたらすかを話された」(館野泉『ハイクボホヤの光と風』音楽之友社、二〇二三)と回想しています。喫煙や喫煙者に対して舌鋒鋭い批判を展開した中田ですが、自身の禁煙・嫌煙運動は、「体の弱い人への思いやりと、みんなが健康で不幸にならないための小さな運動」(「人生は好奇心」5、「公明新聞」一九九六年二月四日)であると考えていたようです。

○反戦・反核

中田は、東京音楽学校(現東京藝術大学)卒業後(戦争のため半年繰り上げ卒業)すぐに陸軍の航空士官「特別操縦見習士官」として宇都宮陸軍飛行学校へ入隊し、その後フィリピンの第四航空軍司令部付きの命を受けてフィリピンへ出征、インドネシアを経て日本に戻り、そこで終戦を迎えました。フィリピンでは特攻隊として頑張ってもらいた

いと言われて強いショックを受け、その後一転、特攻隊ではない旨を告げられて「生命の大切さ」を心から自覚したといえます。また終戦時には、将校は銃殺されるらしいとの噂が広まり、終戦翌日の八月十六日に家族や恩師、友人に宛てて遺書を書いています。

こうした自身の戦争体験から、中田は反戦・反核の立場をとっていました。作品でも、勇壮な『軍艦行進曲』の裏側に、戦争で落命した人々への哀悼の意を込めた、二台のピアノのための『軍艦マーチによるパラフレース』や、戦争を題材にした『だからその海をみない』『八月のヒロシマ』などを作曲しています。

中田喜直という人物の持つさまざまな側面のうちのいくつかを紹介してきました。スポーツ、嫌煙、反戦と、一見多種多様に思えます。しかしその根底には、共通している何かがある、そしてその一つは、戦争で死に迫る体験を経て実感した「生命の大切さ」なのではないかと、展覧会準備を通じて考えるようになりました。

反戦は言うまでもありませんが、嫌煙運動も人々の健康を願う運動であり、スキーも自身が(煙草も吸わず)健康だからこそ楽しめる中田は述べています。そこには中田の命を大切に思う心や、生への感謝が感じられるのです。そしてそれは、親友・畑中良輔(声楽家)に「あたたかい音楽」「やさしさ」と評された中田の音楽にも流れている…。展覧会を担当し、このような思いを強く持ちました。ご来場の際には、ぜひ中田の人物像にも注目して展示をご覧ください。(本文中敬称略)

(文 小林紀子)



蔵王スキー場にて、中田幸子氏(中田喜直夫人)による撮影



蔵王スキー場にて、幸子夫人と



ドンキーズのユニフォーム姿

Exhibition of
YOSHINAO
MAKADA
生誕100年 中田喜直
「夏の思い出」の作曲家
山田正樹

浮世の華

描かれた

港崎〔遊廓〕

令和五年三月十八日～五月七日まで開催された企画展「浮世の華 描かれた港崎」^{みよさき}、本展は横浜にかつてあった港崎遊廓をメインテーマとした初めてのものでした。現在の横浜は、いうまでもなく安政六年（一八五九）の開港を契機としてはいまりました。それまで一寒村地帯であり、のちの関内には横浜新田、太田屋新田、関外には吉田新田、さらに東海道方面には平沼新田など江戸時代に開発された田畑とその間に入海や沼地が点在した地形であったところが、埋め立てられ街の基礎が造られます。海側から海岸通・北仲通・本町通・南仲通・弁天通と主要な町筋がつくられ、神奈川運上所とその北側の波止場を中心に西を日本人居住地、東を外国人居留地として市街地が形成されていきます。こうして誕生していった横浜の街の都市計画の一つに、のちに港崎と名付けられる遊廓建設がありました。その場所は、現在の横浜公園内の横浜スタジアム付近にあたります。

そしてこの展示は、横浜浮世絵に描かれた、港崎遊廓を中心に、遊廓関係の歴史資料を展示するものでした。

横浜浮世絵は、開港以降、横浜の変わりゆく都市景観や発展の様子、外国人、新しい風俗や文化に人々が興味を持つのと同じくして、そうした内容を主題とした浮世絵のことをいいます。開港直後の万延元年（一八六〇）頃から明治五年（一八七二）まで八〇〇点以上描かれ、その半数は万延元年から文久元年（一八六一）の二年間に発行されました。

もともと時事報道的要素の強い浮世絵ですが、幕末・明治期はこうしたメディアとしての要素を強めていきます。港崎遊廓が主題となる横浜浮世絵は、街並みを描きながら遊廓を作品の中心に配置するもの、遊廓を背景にして人物を大きく描くもの、絢爛豪華な楼廓や楼内で遊興に行じる外国人の様子、また人物を大きく



会場

ピックアップした構図、さらに双六にも描かれています。その数は七十点ほどですが、そのほとんどは、岩亀楼を描いたものになります。

遊廓と聞くとどうしても、遊女とジェンダーに纏わるイメージや遊廓の華やかさばかりピックアップされてしましますが、そうしたイメージに対するバイアスをなくすだけではなく、この展示で見たい欲しかったことの一つは、絵画は文字では明瞭にすることができない生活や風俗の現実の一端を表現するものであり、描かれる情報がすべて史料になり得るものではないということも忘れないでほしいということです。そこには画家の意識や芸術的欲求、同時代の社会から求められているものを表現しようとする意識、つまり「まなざし」が包含されているということです。例えば当時描かれた風俗が必ずしも、その当時の風俗を表現しているとはかぎらないということです。浮世絵の場合は、そうした画家の「まなざし」に版元の意向も盛り込まれます。

横浜にも版元はありましたが、ほとんどは江戸の版元でした。つまり主な浮世絵の観賞者は江戸市中の大衆といえます。時事・報道性が高いといわれる横浜浮世絵において描かれた内容は、画家の眼というフィルターと版元の意向を通して作られ創造的要素が含まれているということです。

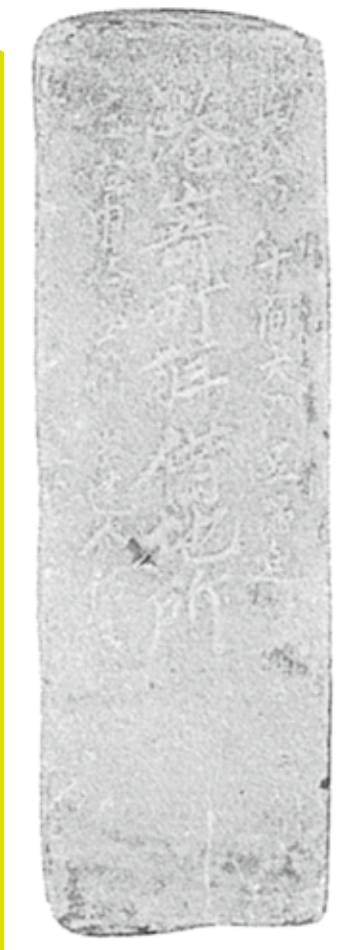
といった具合に、港崎遊廓を取り上げたのですが、会期中、港崎町境界表示としてたてられた「港崎町標石」が発見された、という新聞記事が『神奈川新聞市内版横浜川崎』（昭和二十九年（一九五四）四月十六日付）に掲載されていることが確認されました。記事は、日本大通り地裁脇の道路で、地下ケーブル工事中に1m半の地下から掘り出され路上に置いたままとなつたものが発見されたというものでした。会期中実物の確認はかきませんでしたが、発見後、横浜市史編集室の所蔵となり、昭和四十四年（一九六九）「横浜の埋立展」（十月二十三日～三十日横浜市図書館ホール）に展示され、さらに昭和四十七年（一九七二）発行の『横浜の新田と埋立』（横浜郷土双書第三巻）「第六章横浜中心街の造成」に写真入りで紹介されていることがわかりました。そこには標石に彫られた文字のみ紹介され、

と書かれていました。境界標石は、読んで字の如く境界を示すもので、遊廓の範囲を示すものとして一帯に在つたものと思われまふ。この標石は、おそらく慶応二年（一八六六）の大火で地中に埋もれ、港崎遊廓の境界を示す一帯には同様の石柱があつたと記事にも記されますが現在は行方知れずです。

（文 吉井大門）

「港崎遊廓標柱（高さ七十一cm・巾二十二cm・奥二十一cm）横浜市史編集室蔵」
（表）長百八十間大門足溜迄
港崎町拜借地
左右巾拾四間取建人佐吉
（裏）安政六未歳四月御縄請
万延元申歳閏三月御改

と書かれていました。境界標石は、読んで字の如く境界を示すもので、遊廓の範囲を示すものとして一帯に在つたものと思われまふ。この標石は、おそらく慶応二年（一八六六）の大火で地中に埋もれ、港崎遊廓の境界を示す一帯には同様の石柱があつたと記事にも記されますが現在は行方知れずです。



港崎町標石



レックル

ARCHAEOLOGY

帰ってきた!

君も今日から考古学者!

— 横浜発掘物語 2023 —

反省会

大塚君



2019年以来、4年ぶりの『君も今日から考古学者—横浜発掘物語2023—』は6月25日(土)に無事閉幕しました。前回のNewsでは皆さんに意気込みを語っていただいたので、今回は感想や気になったところをピックアップしてもらおうと思います。



子どもたちに沢山見学してもらったので良かったツクル。遺跡が土に埋まっていく様子を疑似体験できる「遺跡が埋まる?」の日々の様子を動画にしたツクル!

<https://www.youtube.com/watch?v=aJCT5HunsAs>



横浜市内の遺跡分布地図におうちシールを貼ってみる「ご近所の遺跡を探そう!」も地図が見えないくらい貼ってもらった区があったツクルよ。



「土器のかげらをひろったよ!」では土器のかげらにさわりながら土器とにらめっこしてワークシートにスケッチしたよ! 楽しかったけれどちょっと難しいね、これ。

ジョー君



難しい方がやる気が出るから良いじゃない。次の「弥生人に質問だ!」では炭になったおにぎりなんかも展示していて面白かった! 解説の文字がいっぱいで、読んでいたら疲れちゃったのは内緒ね。



やよいちゃん



みんなの疑問に答える「弥生人に質問だ! 2023年版」、今年は難しい質問あったかしら?



ズッキ

スー



年齢を聞かれたけれど恥ずかしかったから秘密にしておいたわ。やっぱり、回答数が少なかったわね。



遺跡に残らない、残りにくいものは展示することができないので、そのあたりの質問がくると大変です(髪はどうやって切ったのか、など)。卑弥呼や邪馬台国についての質問が多かったのは佐賀県の吉野ヶ里遺跡の発掘調査が盛り上がっていた時期に重なったからだと思います。回答数が少なかったのは…申し訳ございませんでした!



学芸員Y



大塚・歳勝土遺跡の特集展示は少し規模が小さかったね。でも最近の博物館の活動や展示室外のスロープのパネル展なんかは良かったんじゃないかな?



パネル展は今と50年前の大塚・歳勝土遺跡を写真で見比べてみようというものでした。ほかに常設展示室内で考古学新聞コンクールの巡回展も行いました。
<https://kids-kouko.com/museum/>



ファ、ファ、ファ、みんなはワークシートのミッションに全問正解して「カリスマ考古学者」になれたかな?



かんちょう



あつ、かんちょう! こんにちは。もちろん「カリスマ考古学者」になれたよ!



ふっ、当然だね。

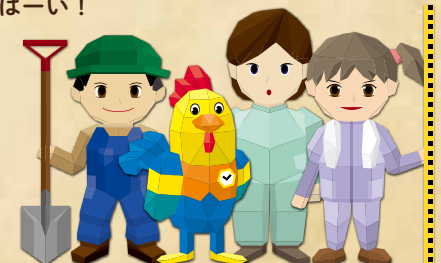


楽しかったけどできたツクル!



よし、これからそなたらは、こうこくしゃとして、おおむかしのなぞに、いどむのだ。

(ジョー君・やよいちゃん・大塚君・レックル) はい!



それでは来年の『君も今日から考古学者!—横浜発掘物語2024—』でお会いしましょう。さようならっ!

キャラクターデザイン: やなぎ堂



これによって海外と貿易
の往来がはじまり、その時代時代
のニーズに合わせた商品が輸出さ
れてきました。本展示では、そん
な横浜を起点に海外へ向けて輸出
された輸出品・工芸品に着目した
展示として、横浜真葛焼、横浜芝
山漆器、横浜彫刻家具、横浜輸出
スカーフをとりあげます。

「Makuzu ware」として欧米の
陶磁器製品にも大きなインパクト
を与えた横浜真葛焼、「芝山象嵌^{そうがん}」
という立体的な技法でレリーフ状
に盛り上がった装飾された横浜芝
山漆器。杜寺建築に見られる彫
刻の技法を取り入れ輸出のみなら
ず横浜居住の外国人の邸宅でも使
用された横浜彫刻家具。世界のス
カーフ生産の六十%を占め、日本
輸出スカーフ製造協同組合が意匠
の模倣防止・創作の保護を目的に

ヨコハマの輸出工芸(仮)

—横浜真葛焼・横浜芝山漆器・横浜輸出家具・横浜輸出スカーフ—

見本や意匠を提出・登録した昭和
三十二年（一九五七）から組合が
解散する昭和六十一年までの横浜
輸出スカーフ。これらの資料につ
いて収蔵資料を中心に紹介し、そ
の歴史を概観するとともに、一点
一点の資料が持つ「世界に通じる
魅力」を感じていただきたいと思います。

また、本展示に関連した特別講
演会として、国内外に向けてそれ
ぞれのニーズに合わせた制作を行
いながらその精神と技術を継承し
ていく中で、戦災によって実質の
閉鎖に追い込まれるという数奇な
運命を辿った横浜真葛焼。そんな
横浜真葛焼について、真葛ミュー
ジウム館長山本博士氏による講演
も二月二十五日（日）に行います。
横浜を冠するそれぞれの資料を
一堂に見ることが出来る貴重な機
会です。みなさまのご来館をお待
ちしております。

(文 小林光一郎)

◆会期 令和6年2月3日(土)
3月10日(日)



③



②



①



④

- ①黄釉青華寶珠取龍之花瓶 横浜開港資料館所蔵
- ②花鳥図屏風(一部) 横浜市歴史博物館所蔵
- ③横浜彫刻家具 筆箱(一部) 横浜市歴史博物館所蔵
- ④横浜輸出スカーフ「赤水玉花瓶」
(認定番号01977 仕向地: アフリカ) 横浜市歴史博物館所蔵



～想いをつなぐ情熱タイムマシーン～

歴史未来フェス

History Future Festival



令和五年は開港記念日の六月二日(金)から
四日(日)まで、横浜市内の児童・生徒のみな
さんは三連休になりましたね。この三日間、横
浜市歴史博物館では「歴史未来フェス」を開催
しました。企画展・常設展の観覧料を無料とし、
常設展示室では特別企画として「スポーツ土器
パズル」と「展示室のまちがいがし」を開催
しました。そのほか、博物館の内外では多彩
なワークショップをはじめ物販店舗、キッチン
カーの出店、アートパフォーマンスなどさま
ざまな企画が実施されました。

コロナ禍以前の博物館イベントをご存じの方
には懐かしい企画もあったかと思いますが、こ
れまで博物館感謝デーとして皆さまに親しん
でいただいていたものをリニューアルした四年ぶ
りの大規模イベントです。今回

は企画運営として、
博物館前の歩道や軒
先でマルシェを毎月
運営されている「み
なきたマルシェ実行
委員会」のみなさまに
ご協力いただきました。
みなきたマルシェ
実行委員会のメンバ
ーは、日頃から様々
なイベントを通して
地域の人が触れ合
えるコミュニ

ニティづく
りを行って
います。そ
んなみな
さんの呼
びかけで、
歴史未来
フェスに
は博物館
周辺の地
域で活動
する三十
以上の個
人や団体
が関わっ
てくださ
います。

エントランスには常に音楽が鳴り響き、かわ
るがわるパフォーマンスが繰り広げられ、博物
館前のエリアまで広がる各出店ブースは地域で
活躍する方々とお客さまとの交流の場になりま
した。三日間の延べ入館者数は五千人を超えま
した。コロナ禍の自粛体制の最中に入社した筆
者は、こんなに人で溢れかえる館内をはじめて
見ました。博物館の周りではこれほど活気にあ
ふれた様々な方が日々活動していて、地元を盛
り上げようとしているのだということを肌で感
じたイベントでした。間もなく、令和七年に開
館三十年を迎える当館がこれからも地域の文化
施設としてみなさまに親しんでもらえるよう、
歴史未来フェスは今後も続けていきたいと思
います。来年の開催をお楽しみに。

(文 花澤明優美)

4度目の正直、 今年はいけるかも！？

民俗担当です(^o^) 前号に引き続き、ゆる～い連載のレキハクファーム通信6号です。

畑で育てるお米「陸稲」を栽培するプロジェクトも今年で4回目。冬から春にかけて畑の土を深く掘り、天地をひっくり返す寒起こし作業をおこなったレキハクファームですが、春の種まきから夏にかけての様子をお伝えいたします。

前号では三度撃沈した前年の畑の様子をお伝えしましたが、その後12月から3月にかけて、寒起こしの作業を行いました。畑を三分の一ずつ、土の中の病害虫を寒さにさらして撃退するのですが、30cmほど掘り起こしていくのはなかなかの重労働です。3回に分けて、すべての寒起こしが終了したのは3月29日…もう暦の上では春になっていました。

せっかく寒起こしをしたので、掘り起こした土には牛糞をしっかりと混ぜ込み、土中の栄養を補給して種まきに備えました。昨年は「No肥料」でどこまで陸稲が育つかを実験しましたが、今年はシェア畑に備えられている有機肥料の牛糞、鶏糞、油かすを使ってしっかり土づくりをしました。

種まきは4月19日に考古担当と一緒に行いました。レキハクファームには4つの畝があり、ひと畝に3列×7株で計21株、4畝合計で84株の陸稲の種をまきました。今年も例年と同じく、陸稲のうるち種「農林24号」です。土づくりの成果がどこまで見られるのか、楽しみです。

5月1日には、発芽を確認し、連休が明けた15日には4畝すべてですくすくと育つ陸稲の芽を確認することができました。博物館の事業が忙しくて6月は畑に行くことができず、すっかり雑草に覆われてしまったレキハクファームですが、7月に入ってから雑草に持っていかれてしまった栄養分を補うべく、追肥と除草、水やりを丁寧におこない、予想されている猛暑をのり切っていきたいと思います。

(文 羽毛田智幸)

[X (twitter)] https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm)
で日々の活動の様子をつぶやいています！



DIARY

植えたもの 陸稲「農林24号」

3月29日 寒起こし
作業3回目。
牛糞を混ぜ込み土づくり。

4月19日 軽く除草して考古担当と種まき。



5月1日 発芽の確認(1か所のみ)。

5月16日 発芽の確認(全畝)、
除草と水やり。

5月22日 除草と水やり。

7月3日 除草と水やり。
鶏糞の追肥。

7月10日 除草と水やり。
梅雨明け前
なのに猛暑。
雑草も少ない畝。

7月18日 除草と水やり。

7月22日 水やり

7月24日 水やり

7月26日 水やり

7月30日 水やり

7月31日 水やり

8月2日 水やり

8月5日 水やり、
出穂を確認。



大塚・歳勝土遺跡公園だより

「よこはま縁むすび講中」と 「かやぶき屋根プロジェクト」4

大塚・歳勝土遺跡公園内の復元建物に葺かれた茅屋根の修繕をととして茅や茅葺屋根について学ぶ「かやぶき屋根プロジェクト」。修繕の内容には茅の確保も含まれています。静岡県朝霧高原茅場に行き、自分たちで刈り取った茅を使って復元建物の修繕を行っています。令和5年は9月ごろから活動を開始したいと考えています。

今年で3年目をむかえる「よこはま縁むすび講中」は横浜北部(旧港北区4区:港北区、緑区、青葉区、都筑区)に存在する地域文化遺産と市民の皆さんとをつなぐ取り組みです。「かやぶき屋根プロジェクト」は、2,000年前の集落と墓地である大塚・歳勝土遺跡と我々現代人が茅や茅葺屋根をととしてつながる活動であることから「よこはま縁むすび講中」の一環として進めてきました。

今年の「よこはま縁むすび講中」はこれまでの3年間の活動のまとめを行う予定です。その際には「かやぶき屋根プロジェクト」の活動も振り返ってみるつもりです。

「かやぶき屋根プロジェクト」にご興味ある方、協力いただける方随時募集中です。その際は当館担当まで是非ご連絡下さい。お待ちしております。

(文 橋口豊)



よこはま
縁むすび講中 <http://yokohama-enmusubi.jp>

かやぶき屋根プロジェクトの紹介記事
<http://yokohama-enmusubi.jp/report/kayabuki-project.html>



かみやべし
上矢部町
富士山古墳出土
盾持人埴輪

はらでぐちくん
原出口遺跡出土
筒形土偶

かみだいさん
上台遺跡出土
人面付土器

令和5年5月20日(土)から6月25日(日)まで横浜市歴史博物館の『君も今日から考古学者！—横浜発掘物語2023—』に出演していました！

となりの大きなひとは、かみやべし(かげむしや)。古墳を守る埴輪のガードマンだよ。本体は常設展示室にいるよ。探してみてね。

3人がいっしょに並ぶことはあまりないけれど、また来年も同じ場所にいそうな予感がするよ。なんだろうね？(6・7ページを読んでね！)

館長コラム vol.4

古代都筑郡の郡役所の模型 — 遺跡の発掘成果を立体化する —

館長 佐藤 信

横浜市歴史博物館の常設展示の古代コーナーでもっとも存在感をもつのは、古代の武蔵国都筑郡の郡役所の模型でしょう。三十年ほど前の開館時に、かなりの力と予算を注いで目玉として作られた模型といえます。

◎古代の郡役所

律令国家は、中央集権的に地方を統治するために国・郡・里の地方行政区画を編成し、国には国府(国衙)、郡には郡家(郡衙)という役所を置きました。国府は、中央から四年任期で派遣された国司が国内

郡家は、こうした諸施設の遺跡群であったのです。

◎都筑郡家

横浜市の多くは古代に武蔵国でした。武蔵国の国府は多摩郡(東京都府中市)にありましたが、横浜では都筑郡の郡役所が発掘されました。川崎市では、武蔵国橘樹郡家の遺跡が正倉院を中心に明らかになり、七世紀にさかのぼる寺跡(影向寺)とセツトで橘樹官衙遺跡群として国指定史跡になりました。

相模国は古代東海道の国であり、東国の諸国は足柄峠から相模・安房・上総・下総・常陸の順に東海道駅路が延びていました。武蔵国は七十七年まで東山道に属していて、碓氷峠から上野・武蔵・下野・陸奥・出羽へと延びていました。武蔵国の古墳時代後期の中心は埼玉県行田市にある埼玉古墳群ですが、『日本書紀』安閑天皇条にみえる武蔵国造の乱の結果、南武蔵にヤ



律令国家は、中央集権的に地方を統治するために国・郡・里の地方行政区画を編成し、国には国府(国衙)、郡には郡家(郡衙)という役所を置きました。国府は、中央から四年任期で派遣された国司が国内

郡役所は、政務・儀式の場である郡庁、色々な機能を果たす実務官庁の曹司、租税を収納・保管する倉庫群である正倉院、郡司公邸の郡司館、郡家官人に給食を供した郡厨(くち)駅路で公的使者に供給する駅家など、多様な施設の集合体でした。

マト王権の直轄領となる四個所の屯倉が設けられました。多末・横津・橘花・倉櫛の四屯倉で、これらが律令制下の多磨郡・横見郡・橘樹郡・久良郡等となります。今は横浜市・川崎市に入る橘樹郡・久良郡・都筑郡などは、七十七年に武蔵国が東海道に編入されると、相模国府から武蔵国を経由して下総国に向かう官道沿いに機能していきま

こうした古代郡役所の全体像がわかる都筑郡家は重要な遺跡でしたので、その成果から立体的に百四十分の一に推定復元した模型が作られたのです。

この模型では、郡庁の正殿・脇殿や、正倉の高床倉庫建物群などの建物が復元されており、さらに郡家に貢進物を運び込む人々の隊列や、郡庁・正倉院で仕事する人々が小さな人形で表現されています。

このように、古代の役所の全体像を発掘調査・研究成果から立体的に復元する作業は、古代の地方役所の環境や実像を歴史的に理解する上で、とても大事な情報を提供してくれることとなります。古代の郡役所が、当時の人々にとってどのような存在であったかを知るためには、単に発掘調査成果から建物一つを再現するだけでなく、遺跡の全体像を総合的に復元すること

が役立つのです。遺跡の一部分を発掘調査する時でも、常に遺跡の全体のどの部分を明らかにしつつあるのか、全体模型を作る意識をもっていけば、遺跡の価値をより正しく評価できるのだと思います。

ぜひ、こうした目をもって、展示模型を見ていただけましたら、幸いです。

◎模型の意義

都筑郡家(長者原遺跡)の発掘も、古代の交通路が再現される現代の高速道路建設の事前調査でしたが、この発掘調査成果から、数個の微高地をもつ台地上に、郡庁、正倉院、郡司館や厨などが集まっている様相が知られました。「都」と郡名を記した墨書土器も出土しました。



ご来館の際は
ぜひご注目ください！



史料紹介

徳川家康の伝承と村々―どうする鶴見橋―

(読み下し文)

今年放送中の大河ドラマ「どうする家康」。舞台は東海地域や江戸ですが、ここ横浜地域にも家康の伝承が伝わっています。ここでは、鶴見区にある鶴見橋（現在は「鶴見川橋」）にまつわる家康伝承の史料を紹介したいと思います。

当館に、「乍恐以書付奉申上候（おそれながらかきつけをもつてもうしあげたてまつりそうろう）」という史料があります。年代は天明五年（一七八五）で、鶴見橋の維持管理のしきたりについて鶴見村と市場村（ともに現、鶴見区）の役人が幕府代官所に提出した史料です。鶴見橋は、東海道が鶴見川をわたる際に通る橋で、鶴見村と市場村の村境にありました。鶴見川は、度々洪水を起こしたので、橋の維持管理はとても大変でした。

江戸時代、川や橋などの普請（工事）には、幕府や領

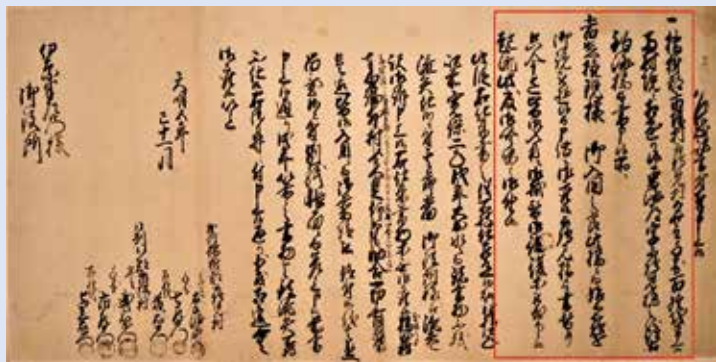
主がお金を出す「御普請」と村がお金を出す「自普請」とがありました。鶴見橋は、東海道筋にあるため、当初より「御普請」で行われていましたが、次第に幕府財政がひつ迫すると、幕府は工事費用を村々に転嫁しようとしてます。

村々としては、何としても、鶴見橋が従来から「御普請」所であったこと、今後も「御普請」所でなければならぬことを幕府に主張しなければなりません。興味深いことに、史料には、その根拠の補強として、鶴見橋は、昔「釣海橋」と書いたが「当照権現様」（家康）がこの橋で初めて鶴を見たということから「鶴見橋」という名称に変わった、いわゆる「家康命名の橋」であることが記されています。

しかし、この説には疑問があります。「鶴見」という地名は江戸時代以前から使われていて、江戸時代の地誌『新編武蔵国風土記稿』には、「此説うけがたし。鶴見村の名は古代よりのことなるは論をまたずして明なり」と、当時の人々もこの説は虚説であることは認識していたようです。しかしながら、事実か否かに関わらず、当史料からは、神君家康の権威を、鶴見橋が「御普請」所である根拠として利用していた村々のしたたかさをみることができます。（文 仲泉剛）



「東海道名所之内 鶴見」（横浜市歴史博物館所蔵）
2代広重 文久3年（1863） 縦大判
茶屋で大名行列が休息している情景を描く。右上に描かれている橋は鶴見橋。



鶴見村文書（横浜市歴史博物館所蔵）
天明5年（1785）11月 乍恐以書付奉申上候
（鶴見橋に関する仕来書之儀所持仕罷有候哉之御尋につき）

一橋樹郡市場村・鶴見村名主年寄百姓代申し上げ奉り候
両村境に相懸り候東海道字鶴見橋の儀、往古釣海橋と書き申し候ところ、
当照権現様 御入国の節この橋にて始めて鶴を御覧あそばされ候と申伝に御座候、鶴見橋と書き替り
只今迄皆御入用に御掛け替え御修復等くだされ候
起流此度御吟味に御座候

DB

データベースを使ってみよう！

当館は令和5年10月2日から休館します（詳細は巻末INFORMATIONをご覧ください）。休館中も使えるツールとしてDBをご案内したいと思います。インターネット環境があればどなたでも何百、何千、何万の情報の森に入ることができます。

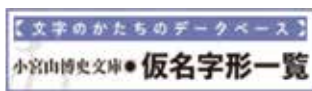
まずは、ホームページの収蔵資料紹介を開いてみましょう。横浜市の文化財、博物館内の収蔵資料の一部を検索できます。キーワード等に何も入力せず、検索開始ボタンを押すと、登録しているもの全てが結果表示されます。

次にトップページを下の方にスクロールすると、「文字のかたちのデータベース 小宮山博史文庫・仮名字形一覧」という枠があるのでそれをクリックしてみましょう。企画展「活字 近代日本を支えた小さな巨人たち」（令和4年度）の特設サイトで公開していたオンラインDBです。明治期の活字見本帳から6万字のひらがな、カタカナの金属活字の文字のかたちを一覧できます。「あ」ひとつとってみても、これ程特徴の違う文字のかたちがあることを知り感動します。先人の努力、文字への強い愛を感じますね。

そして、図書閲覧室（蔵書検索）のページへ移動してみましょう。蔵書の書誌データ（タイトルや著者などの基本情報）も蔵書目録というDBです。当館図書室では多くの図書・雑誌の目次情報まで登録しているので、キーワード検索で思いがけない本がヒットすることもあります。休館中は閲覧ができませんが、お急ぎの場合は他機関の蔵書検索サイトを活用して所蔵館を探してみてください。分からないことがあれば、歴博図書閲覧室担当までお電話でお問い合わせください。（文 古川恵美）



収蔵資料紹介トップページ



「仮名字形一覧」には、このボタンからアクセスできます。

こちらのQRコードからもアクセスできます。



図書閲覧室のページ

※図書閲覧室のページでご案内している「横浜スカーフ・アーカイブ」については、休館中は利用ができませんが、横浜市中心図書館にて同じDBを利用することができます。利用希望の方は、横浜市中心図書館までお問い合わせください。

※世の中にある様々なDBについて、また機会があればご案内していきたいと思ひます。

休館の お知らせ

令和5年10月2日(月)から令和6年2月2日(金)(予定)まで、機械設備更新工事のため休館します。
大塚・歳勝土遺跡公園は通常通りご利用いただけます。
※大塚遺跡(復元住居等)は月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始を除き、9:00~17:00開園します。
※ボランティアによる遺跡ガイドをご希望の方は、希望日の1週間前までに博物館にお問い合わせください。

休館中の活動

- 国重要文化財特別公開 関家住宅 令和5年11月18日(土)
- 横浜市認定歴史的建造物 中山恒三郎家 公開
令和5年11月26日(日)
- 令和5年度横浜市指定・登録文化財パネル展示
令和6年1月10日(水)~1月17日(水)※横浜市役所アトリウムにて開催
- おもしろいぞ!紙芝居
横浜市指定有形民俗文化財「街頭紙芝居」の複製を中心に実演します。
- れきし工房
歴史や文化を楽しく学びながらオリジナル作品をつくるワークショップです。

展覧会

- 特別展「生誕百年 中田喜直展」
令和5年7月15日(土)~10月1日(日)
- 企画展「ヨコハマの輸出工芸展」(仮)
令和6年2月3日(土)~3月10日(日)
※工事の進捗状況により、会期を変更する場合があります。

イベントや
ワークショップ等の
開催については、
当館ホームページ、
X (twitter) にて随時
お知らせしていきます!



れきし工房 まがたま作り

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00~17:00 (入館・券売は16:30まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)、年末年始、令和5年10月2日~令和6年2月2日
そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものを提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。

■補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報は出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
駐車場あり(30分100円)



横浜市歴史博物館 YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1
Tel.045-912-7777 (代表) Fax.045-912-7781
<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
X (twitter) @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.55 令和5年8月31日発行
編集・発行 横浜市歴史博物館
デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)